

身近に子供がいる方45%、親族がいない方27%

介護保険の要介護・要支援状態と判定されても、自宅で一人暮らしをする高齢者が増えています。何かあった時にかけつけてくれる親族が身近にいれば頼りになり、安心のより所になります。子どもが身近にいる方が45.2%と半数近くいて、諏訪は比較的高い比率と言えます。互いに支え合うサポートのあり方は、親子のきずなのこれからの課題です。駆けつけてくれる親族がいる方は、いない方26.8%に対し73.2%になります。心配や悩みごとを相談できる人として親族をあげた方が73.2%になり、身近に駆けつけてくれる親族とほぼ同じ割合です。

問題になるのは身近に駆けつけてくれる親族がいない方が26.8%、心配ごとや悩みごとを相談できる親族がいない方が25.9%と、ほぼ4人に1人いることです。これは要介護状態で一人暮らしや夫婦二人世帯で老々介護をする高齢者にとっては心細いことです。こうした方々への相談や支援体制を整えることは、住み慣れた家で可能な限り暮らすという在宅介護をすすめてゆく上での課題といえます。

